

平成28年度 自己評価表

松山南高等学校（全日制課程）

学校番号(22)

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	志高く、未来を切りひらく人材を育てる — 国際的視野とキャリアデザイン能力の育成 —
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
自己実現の支援・個性伸長の支援	生徒の自己実現の積極的な支援	1日平均家庭学習時間：学年＋2時間	C	年間の平均家庭学習時間は、1年生が179分、2年が160分、3年生が243分で、目標を下回った。	授業を徹底的に改善することで学習に対する意欲を喚起させ、学習への積極的な取組を加速させたい。
		現役生の国公立大学合格者数：250人以上	C	3月末時点で236名（国立大197名・公立大39名）が合格した。昨年は266名。	進路学習を継続し、明確な志望動機を持たせながらより主体的な学習態度を育てる。
		現役生の難関国立大学合格者数：20人以上	C	3月末時点で9名（京都2、神戸4、九州3）が合格した。昨年は20名。	適性を見極め、夢を持たせるとともに、早い時期からの個別指導を充実させ支援を継続する。
		全国模試平均偏差値：60以上	C	進研模試で1年生60.2(3回)2年生58.7(3回)3年生文系54.6、理系52.9(5回)。	模試分析結果を全教員に示し、課題を共有する。特に各教科で中間層の引き上げ対策を講じ、国数英のバランスのとれた生徒の育成を目指す。
	生徒の個性・能力の伸長の支援	部活動加入率：90%以上	A	91.3%の加入率であった。	高いレベルの文武両道を掲げて活動している。2年2学期以降の退部者が増加傾向にあるので、部活動を継続できる支援体制づくりについて検討する。
		県高校総体出場種目数(人数)：全種目出場(250人以上)	B	231名の出場数であった。全種目出場となった。	団体出場権及び個人種目出場権を数多く獲得するとともに、上位大会への出場・入賞を目標として学校の活性化を図る。
		県高校総文祭優秀賞：6部門以上	A	吹奏楽、弦楽、放送、自然科学、文芸、将棋の各部門で優秀賞を受賞した。	高文祭や各種コンクールへの出場・出展を目指しながら、校内での文化的活動を充実させ、学校の活性化を図る。

豊かな教養の涵養・豊かな人間性の育成	豊かな教養と広い視野を備えた生徒の育成	全国レベルの科学コンテスト入賞数：3件以上	B	生徒研究発表会でポスター発表賞、坊っちゃん科学賞で優秀賞・優良入賞と、全国レベルの入賞は3件であった。	参加・応募数が多かったが、入賞には届かなかったものが多かった。引き続き生徒・指導教員の意識改革に力を入れ、課題研究や科学系部活動の活性化を図る。
		理数科生徒のAO・推薦入試合格者数：10人以上	D	3月末時点での国立大推薦入試で2名、国立大AO入試で2名が合格し、合計4名であった。昨年は国公立推薦9名、AO4名の計13名であった。	理数科での経験を生かした進路実現を達成することができなかった。愛媛大学スーパーサイエンス特別コースには普通科から1名合格した。
		創作活動や各種コンテスト等へのチャレンジ：1件／人以上	A	青少年読書感想文718点、書道展192点、美術関連308点、家庭科関連362点を応募・出展した。	英語スピーチコンテスト県最優秀受賞など各分野で好成績を収めた。今後も多岐にわたり、各種コンテストにチャレンジさせる。
	心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成	出席率：99%以上 不注意による遅刻者数：アンダー300	D	3月末における出席率は1年生が98.6%、2年生が同じく98.6%、3年生が98.5%であった。不注意による遅刻は延べで465名であった。	長期欠席者が複数人おり各学年で出席率は若干低くなっている。授業の質を上げ、諸活動の充実を図り、教育相談・支援体制を整えることで状況の改善に努めたい。
		いじめ問題発生件数：0件	B	ほとんどの生徒が望ましい人間関係を築けているものと思われるが、問題となる事案も発生しており、早期解決に向けて協力体制を整え対策を講じた。	望ましい人間関係やコミュニケーションの在り方について、教育のあらゆる場面において指導するとともに、人権尊重の精神を基盤として、温かい人間関係づくりを推進する。
		重大交通事故発生件数：0件	B	3月末現在で、交通事故の届け出件数は20件で、減少傾向にある。重大な交通事故は0件であった。	事故件数は減少傾向であるが、交通ルールやマナーの遵守については、引き続き粘り強く指導していく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。